

第547回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和6年3月6日(水) 午前11:00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 林 新一郎

副委員長 井口 弥寿彦

委員 浅井 隆彦

委員 笹本 正治

委員 武重 正史

委員 中山 潔

委員 南澤 光弥

○欠席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員 加藤 恵美子

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 (代表取締役社長)

船木 正也 (常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当)

久保 善一 (取締役 報道制作・企画事業担当)

西條 彰浩 (報道制作局長)

早川 英治 (編成業務局長)

浅輪 清 (編成業務局次長 兼 考査部長

兼 放送番組審議会事務局長)

北澤 輝久 (編成業務局編成部長 兼 視聴者室長)

4. 議題

(1) 番組審議

『 地球沸騰化の時代を生きる

令和5年12月29日（金）10：20～11：20放送

(2) 視聴者対応報告（令和6年2月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・今の気候変動、環境問題として国連事務総長がああいう発言した中で、地球沸騰化という言葉はタイムリーですし、インパクトのある言葉なのでこれをキーワードとして取り上げられたのは非常に良かった。
- ・仏教という宗教的な観点でこの問題をどう捉えるかということに関しては、栢木貫主は非常に優しい分かりやすい言葉で表現していただいていた。
- ・人間の煩悩が無限にある中で欲の問題とどう向き合っていくかというのが今回のテーマということで、テーマ設定を明確にさせていただいたのは良かった。
- ・少し違った所で意見を戦わせるような話があると、この対談がもっと面白かったのではないか。
- ・重要と思われる言葉をキャプションで出していたのがとても的確。それぞれの意見が明確に分かる工夫をしてもらえた。
- ・対談の中で出てきたキーワードを解説付きのキャプションで流したことは、非常に分かりやすく自分たちの今後の行動に落とし込みやすと感じた。
- ・固くなりがちな対談なのでティーブレイクは対談者の素の姿も見られたのが、良かった。
- ・栢木貫主が色紙に書かれた言葉「道心の中に衣食あり 衣食の中に道心なし」が、非常に良かった。
- ・「因果応報」、「中道中庸」、「足るを知る」等々、今後の自分の生活の中でのヒント

になるワードが幾つか出てきた。

- ・異分野の垣根を越えてお互いに年は違いますが、リスペクトしながら共通解を導き出そうという姿勢が見られた。
- ・会場が大勧進の紫雲殿、仏様の前の場というセットだったので、まさにありがたい法話を聞いているような空間も良かった。
- ・地球が悲鳴を上げているということに対して目を背けるのではなくて私は何ができるのか、どんな行動をすればいいのか、地域社会としてできることは何かと足元のことを考え直す良い機会になった。
- ・話の内容自体は非常に深く考えさせられ、自分自身の普段の行動、特に企業経営において、どういうふうにこれを生かすのかということについてももう一度考える機会を与えていただいた。
- ・一番大事なのは現代の問題点を認識させられることができたいい番組だと思った。
- ・経済思想家と宗教家の間で審議・論議をしているのではなく、なんとなくお互いに傷つけない程度でやっていて、私たちに対して生き方として言ってくれるなら、もっとやって欲しかった。
- ・どう生きて行こうかというヒントになりそうな話を率直に語り合っている刺激的でチャレンジングな番組なのだと感じた。
- ・対談の中で「足るを知る」とか「少欲知足」とかの言葉をあげて、欲を上手に何とかコントロールしながら価値観を変えていく生き方についてお二人とも説教臭くなく語り合っていたのが印象に残った。
- ・このテーマでそれぞれの実践的な取り組み等を含めて引き続き報道をしていただければありがたい。
- ・お二人の対談が単元的で待ったなしの温暖化にちょっと浮世離れしているのではないのかなという感じも受け、どのように本当の意味のCO₂対策に持って行くかというのがこれから大きなテーマではないかと思う。

(2) 視聴者対応報告（令和6年2月分）

資料に基づき、令和6年2月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

自社制作番組に関する受賞報告

配布資料

- ・第546回番組審議会（令和6年2月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和6年2月分）
- ・モニターレポート
- ・BPO報告（NO. 260）
- ・民間放送（第2224号）

以 上